



秋田県立比内支援学校 教育プラン

令和5年度～令和9年度

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状】

- 本校は令和5年に創立50年となる。これまで培った地域との関係や恵まれた自然環境を生かし、学校と地域が共に育つ活動実践や感謝される体験を通して、児童生徒の「本物の力」を育てることに努めている。
- 向こう5年間の予想児童生徒数は、小学部30名程度、中学部35名程度、高等部55名程度、総計で120名前後で推移することが予想される。また、令和5年2月に利用開始した新寄宿舎は、35名程度の利用希望者が今後も予想される。
- 地域の学校との交流及び共同学習や、高等学校特別支援チームをはじめとしたセンター的機能の活動を実施し、本校に対する理解推進と地域の特別支援教育の充実を図っている。
- 令和4年度で校舎部分の改築は完了した。今後グラウンドと外構が整備される予定である。
- 過去3年間の高等部卒業生の就職率は50～60%で推移している。福祉サービス利用希望者については、希望する事業所でのサービス利用がかなっていない。

【課題】

- 伝統ある教育活動を一層充実させるために、常にチャレンジある学習活動を展開するよう工夫・改善する必要がある。
- 児童生徒の情緒の安定を基盤に、障害特性に配慮し一人一人に応じた指導・支援を充実させる必要がある（自立活動の改善・充実、ICTの効果的活用）。
- 新校舎の機能及び地域の特色を生かし、6次産業化や作業学習製品の品質向上を更に図る必要がある。
- 早期からの職業教育の充実により、高等部卒業生の就職率60%を維持していく必要がある。

【学校を取り巻く将来の状況の予測】

- 障害の重度・重複化、多様化への対応と、個に応じた指導の充実及び指導力の保持・向上が一層求められる。
- 新校舎の機能を活かした教育活動や、地域交流室を起点とした地域コミュニティとの交流、寄宿舎の自立生活体験エリアの活用など、保護者及び地域の期待が高まる。
- 地域（大館市）の教育委員会や関係機関、小・中学校・高校における特別支援教育の支援の充実のためのセンター的機能の工夫が引き続き求められる。

II 目指す方向性 ・ 学校像や児童生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

- 「地域とともに育ち、地域に感謝される教育活動を推進する学校」を目指し、地域との連携や活動を通して、児童生徒の「本物の力」を育てる。
- 「一人一人の思いや願いに応え、積極的に自立と社会参加を目指す学校」を推進し、授業改善を図りながら、社会に参加する力を育む教育活動を展開する。

【目指す児童生徒の姿】

- 健康・・・心身ともに健康になろうと努力する子ども
- 誠実・・・喜びをもって精一杯努力する子ども
- 自立・・・自分のことは自分の力で成し遂げようと努力する子ども

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

1 「地域を支え、地域に感謝される」

○地域との共催行事、地域行事への参画

- ・達子森の夏祭りの共同開催、総合防災訓練の実施
- ・木育、本場大館きりたんぼ祭り、比内とりの市等、地域活動への継続参画
- ・除雪ボランティアや寄宿舎の地域ボランティア等の継続実施

○学校後援会、PTAとの連携

- ・地域交流室でのランチ提供、前田野地区の交流会の会場提供等、新校舎を活用した交流の実施と学校及び教育活動の理解推進
- ・障害理解研修会の実施、学校行事や地域資源を活用した学習の連携等、地域理解推進に係る学校後援会、PTAとの連携の継続

2 「社会参加につながる特色ある教育課程」

○本物の力・生きる力につながる学び

- ・伝統ある教育活動の一層の充実を図るチャレンジある企画・工夫・改善
- ・新学習指導要領に基づいた社会に開かれた教育活動と授業改善
 - －指導主事、外部講師等を活用した授業改善の指導助言
 - －授業力向上のための一人一授業研究による実践
 - －公開研究会の開催（年1回、全学部の授業提示と研究会の実施）

○学校特産品の開発、製作、販売（6次産業化と外部講師、地元事業所等との連携）

- ・外部講師の積極的利用、作業学習製品の品質向上
- ・農産物を使った学校特産品、地元事業所等との共同製品の開発

○居住地校交流の充実

- ・希望する全児童生徒の居住地校交流の実施
 - －居住地校交流を行う小・中学部児童生徒の割合：令和4年度48%、令和9年度60%

○寄宿舎における自立に向けた生活指導の充実

- ・通学生も含めた寄宿舎の自立生活体験エリアを活用した一人暮らし体験の計画的な実施

3 「児童生徒が社会に参加する」

○希望する進路の実現

- ・中学部と高等部の作業学習の連携、中学部生徒の現場実習の実施等、学部間や地域連携による早期からの職業教育の改善・充実
- ・高等部卒業予定者のうち6割の就職、就職を希望する生徒全員の就職決定
- ・卒業後3年後90%の職場定着
- ・福祉サービス利用希望者全員の希望する事業所での福祉サービスの利用の実現

○自分のよさを生かし、社会に貢献する

- ・自立活動の改善・充実
 - －個別の教育支援計画・個別の指導計画の定期的な見直しに基づく授業実践
 - －PT・OT・ST等の外部専門家を活用した自立活動の専門性向上
- ・ICT機器活用による授業改善
- ・職員のICT研修会の計画的な実施
 - －ICTを活用して指導・支援できる教員の割合：令和4年度85%、令和9年度100%

4 「就学、地域の学校を支える」

○大館市内全幼保・小・中との連携

- ・市関係機関との連携強化と自校解決力を促す計画的、継続的な支援
- ・教育専門監、センター的機能による全幼保・小・中・高への支援

○高等学校特別支援教育チームの支援の充実

- ・県北地区高等学校への派遣継続、支援機関と連携した就労支援、研修会の実施